

緑豊かでゆとりと潤いのある快適な環境と美しい景観の創造をめざして



日造協ニュース

2021. 8月
通巻 第569号

発行：一般社団法人日本造園建設業協会 編集：広報活動部会 <http://www.jalc.or.jp>
〒113-0033 東京都文京区本郷3-15-2 本郷二村ビル4階 TEL:03-5684-0011 FAX:03-5684-0012

本号の主な内容

- 2面 地域リーダーズ勉強会報告 2021日本造園学会全国大会に参加
- 3面 【学会の目・眼・芽】よりいっそうの社会連携に向けての「芽」
(公社)日本造園学会理事・工学院大学教授 篠沢 健太
「街路樹剪定士」資格制度規程の改定について(2022年1月施行)
- 【アフターコロナに向けて】定員削減スペースに植物を配置
- 4面 【ふるさと自慢】「塩羊羹」と「ところてん」出身地 長野・諏訪大社の名品
愛知県 島田 茜 (株)中嶋造園土木
- 【緑滴】走ることを楽しむ
北海道支部 田中 由香利 (株)北海道造園コンサルタント

第48回 全国造園デザインコンクール 応募要項を発表

全国造園デザインコンクールは、造園のデザインと製図技術の向上を目的に昭和49年にはじまり、その後、応募課題を拡充するなど、美しい国土と安心・安全で快適な生活環境を実現する多様な造園空間を対象に、デザイン、設計技術、表現手法の向上を図り、次世代を担う青年の造園に対する興味を醸成し、入職促進に寄与することを目的として毎年実施している。このほど、第48回コンクールの応募要項を日造協ホームページに掲載したほか、全国の高校・大学など教育機関などに配布した。

第48回全国造園デザインコンクールは、日造協の主催、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会、全国高等学校造園教育研究協議会の共催、文部科学省、国土交通省、NHK、全国農業高等学校長協会、(公社)日本造園学会、(公財)都市緑化機構の後援(申請中)で実施する。

応募資格は、高校生の部と大学・一般の部の2つで、造園に関する科目履修者や造園に興味を持つ高等学校、大学、大学院、短期大学、専門学校等の生徒・学生及び造園の設計・施工管理などに従事している者を対象に応募を受け付ける。

応募課題は、すべての対象者向けのA「住宅庭園」(個人住宅の庭園)、B「街区公園」(街区公園)、C「商業施設」(商業施設の屋外空間)、D「実習作品」(作庭、駅前・街角などの広場、緑道、校庭緑化、植物を使用したモニュメント・ディスプレイ(生け花、フラワー・アレンジメントは除き、高校・大学などの生徒に限る))の4部門と高校生1・2年生を対象としたE「緑化フェア(みどりの広場)プラン」部門で構成している。

なお、近年のコンクールは各部門とも、デザイン、設計技術、表現手法だけでなく、社会情勢の変化などを踏まえた新しいアイデアを取り入れた作品を加点評価することとしている。

応募作品の表彰は特別賞として、高校生の部で最も指導力の優れた高等学校を対象とする「文部科学大臣賞」(1校)、全作品の中で総合的に最も優れた作品「国土交通大臣賞」(1点)、全作品の中

で新たな技術開発に資する最も独創性や先進性を有する作品「公益社団法人日本造園学会長賞」(1点)、全作品の中で計画・施工・利用について最も優れた作品「一般社団法人日本造園建設業協会会長賞」(1点)、全作品の中で着想・デザイン等の最も優れた作品「一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会会長賞」(1点)、高校生の部で総合的に最も優れた作品「全国農業高等学校長協会理事長賞」(1点)、高校生の部で最も優れた作品「全国高等学校造園教育研究協議会会長賞」(1点)、緑化フェア「みどりの広場」プラン部門で最も優れた作品「緑化フェア「みどりの広場」プラン賞(緑化機構賞)」(1点)を選出するほか、高校生の部、大学・一般の部ごとの「入賞」「佳作」について表彰することとしている。

第48回コンクールの応募期間は、令和4年1月4日(火)から1月14日(金)(当日消印有効)まで。

作品の審査は、令和4年1月23日(日)に10名からなる審査委員で行われ、2月1日に審査結果を日造協ホームページで発表する。

なお、表彰式は2月11日(金祝日)東京グリーンパレスでの開催を予定している(新型コロナ感染症の拡大防止対策などの影響により、審査・表彰式などに変更の場合がある)。

応募要項は、日造協ホームページに掲載している。コンクールについて、より多くの方々に知っていただくとともに、より多くの作品の応募が期待される。

令和3年度 国土交通大臣表彰

建設事業関係功労 日造協から7氏が受賞

国土交通省は7月12日付で、令和3年度の国土交通大臣表彰受賞者を表彰した。

日造協関係者からは7氏が、建設事業関係功労の都市計画事業関係で、「多年造園工事業に精励するとともに関係団体の役員として業界の発



三栖 裕司 氏



茨木 和幸 氏



田中 静雄 氏



森 茂 氏



木下 浩市 氏



松田 英明 氏



下地 浩之 氏



(一社)日本造園建設業協会は2021年11月に創立50周年を迎えます。

樹林

(一社)日本造園建設業協会理事
株葉隠緑化建設代表取締役会長 久保 和男



コロナ禍における協会活動について

決意を新たにしたところです。

佐賀県では、2024年に「国民体育大会」が「国民スポーツ大会」へと変わる初めての大会となる「SAGA 2024国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」の開催を控えています。

コロナ禍ではありますが、協会としても、前述の活動など、緑豊かな地域づくりの一翼を担いながら、この大会のために全国から佐賀県に来訪いただたくさんの方々を花と緑でもてなす取り組みを継続していくことで、大会の成功に寄与していきたいと考えています。

この様な中ではありますが、佐賀県支部としては、コロナ感染症に配慮しながら小規模のイベント等を開催する等、県内各地で緑化の取り組みを継続しています。

例えば、「花と緑を育む地域づくり推進事業」として、これまで市町において単独で行われていた緑化等に関するイベントにも積極的に参画し、各地域のボランティア団体等との協働により、県内各所の道路等の公共施設のスペースに草花を植え、市民の憩いの場の創出を図るなどの取り組みを行っています。

コロナ禍においては、このような活動に取り組むにあたっても、やはり一抹の不安がありました。現在では、屋外の活動であれば、マスク着用の徹底や三密を避ける等の参加者の感染防止対策を十分に行うことにより支障なく実施することができるという確信をえることができました。

また、コロナ禍にも拘わらず、緑化に対する熱意をお持ちのたくさんのボランティアの皆さんや子供たちに参加いただくことができ、改めて緑化に対する県民の意識の高さを感じたところであり、これからも地元の皆さんとともに県土緑化の推進を図っていく

公園や緑地が精神的・身体的な健康に重要な空間であることは広く認識されていますが、外出さえも控えざるを得ない昨今のコロナ禍であるからこそ、その重要性は更に高まっているのではないかとも思います。

協会は、社会生活に寄与する団体として、マスクの着用、三密避ける等の感染防止対策に取り組みながら、緑化事業をしっかりと継続していきたいと考えています。

2013年に韓国において佐賀県が出版した日本庭園は永久保存として残していただけたということを聞き及んでおり、2023年の順天湾国際庭園博覧会にはぜひまた訪韓したいと決意をしているところですが、コロナの状況によってはそれもままならないかもしれません。

一日も早いコロナの終息を願うばかりです。

大防止の観点から、7月の開催を延期した。なお、今年度は244人、3団体が受賞した。

日造協関係の受賞者は以下の通り。

三栖裕司氏 (65) 北海道小樽市

(株)宝樹造園 代表取締役社長

茨木和幸氏 (63) 京都市

(株)茨木春草園代表取締役会長

田中静雄氏 (67) 鳥取市

(株)田中造園土木 代表取締役社長
森茂氏 (67) 高松市

(株)森造園 代表取締役

木下浩市氏 (60) 福岡県久留米市

木下緑化建設(株) 代表取締役

松田英明氏 (56) 長崎県西海市

(株)松田久花園 代表取締役社長

下地浩之氏 (58) 沖縄県西原町

(有)西原農園 代表取締役

「地域リーダーズ勉強会」ポスターセッションミニフォーラム報告

完全オンライン開催になった「2021 日本造園学会全国大会」(5/21-23)に参加

地域リーダーズの活動目的のひとつとして、「造園建設業界内だけではなく外部とのネットワークも構築する」というものがある。その目的のため、今年度1回目の勉強会（総支部代表のみ参加）は、2021年5月21日(金)～23日(日)に仙台で開催される日本造園学会全国大会に参加し、学会関係者と交流を深めることとした。

しかし、大会の2週間前でも新型コロナウイルスの感染拡大に歯止めがかかるからなすことから、大会 자체が完全オンラインでの開催に移行したので、当勉強会もそれに準じオンラインでの開催となった。地域リーダーズのメンバーは、各自オンラインで大会に参加し、研究発表やシンポジウムを視聴した。また、地域リーダーズとして、全国大会にポスターセッションへの参加と、女性活躍推進部会との共同ミニフォーラムを企画した。

今回はその企画の内容と造園学会に参加されたメンバーの感想を紹介する。

ポスターセッション

元地域リーダーズである(株)武田園芸の武田和博氏（山形県支部）により「リノベーションで蘇る東の杜～納まり+コストカット＝クロスオーバー～」というテーマで、限られた予算と短い工期の中、芸術文化交流施設を東根市の新しい顔に生まれ変えるプロジェクトを紹介。実験や調査のテーマではなく、施工現場をテーマとして発表する目新しい発表となった。

ミニフォーラム

ミニフォーラムは「造園の魅力～私たちはなぜ造園を選ぶのか～」と題し、造園に関わる施工業界からコンサル、行政や大学の様々な方々に、それぞれの視点から造園の魅力や課題、今後についてお話しをいただいた。

リノベーションで蘇る「東の杜」 納まり+コストカット＝クロスオーバー

1.はじめに

施工場所の山形県東根市は人口わずか46,000人足らずであり、大都市のリノベーション工事のように費用などはなく、また建築設計事務所の基本設計があるのみで庭園の設計や造園の設計事務所もないため、大手のように監理だけはいかない。そのため、全てを自社施工して行わざるを得ず、工事完了後も指定管理の予算がないことが多いに見えた。

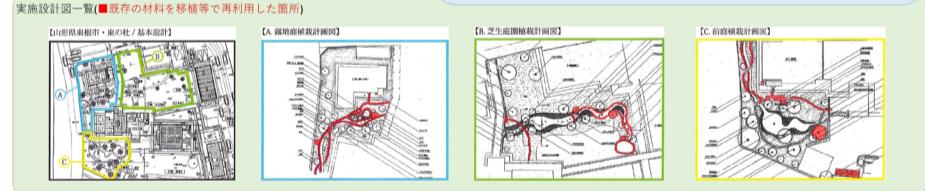
しかも工期が9ヶ月から翌年3月中旬までと短く、雪の中の冬季施工も予測されたため、建築・施工・電気工事会社との打ち合わせを重視しながら、工程が滞るどころか撤入路の確保すら危ぶまれるほどであった。

そこで、庭園としての創意工夫により工事費と管理費を削減する中で、「東の杜」がアリエイア。それぞれ違う表情の見える納まりの良い庭園づくりを挑戦した。

2.工事概要（コンセプト）

・横流酒蔵より寄贈の酒蔵をリノベーションし、資料館・芸術文化交流施設「東の杜」として、東根市の新たな顔に。
・既存の庭園樹木、景石・庭石・飛石・切石・基礎石・灯籠を使用し、自然風の流れや露地・モダンな池庭として再生

実施設計図一覧（■既存の材料を移植等で再利用した箇所）



4.本工事



「ポスターセッション」における武田和博氏（山形県支部）のポスター



「ミニフォーラム」パネリスト参加者（Zoomの画面より）

上段左から：酒井一江氏（日造協 女性活躍推進部会長）、赤嶺太紀子氏（高野ランドスケーププランニング株）、小林正典氏（株小林造園）、中段左から：松戸克浩氏（日造協 地域リーダーズ総リーダー）、村上修一氏（滋賀県立大学）、加藤友規氏（植彌加藤造園株）、下段：鈴木幸子氏（横浜市）

ミニフォーラムでは諸先輩方が各々の立場で造園の魅力を伝えて頂き、視聴者からは他にどの程度視聴者がいたのかはわからなかったが、きっと造園の魅力が伝わったであろうと感じた。

私もインターンシップや学校への出前講座などにわずかながらでも関わっているので、技術や知識だけでなく、造園の魅力を伝えられるように努力したいと思う。

造園学会での発表等は、日頃造園工事施工を主として行う事業者として、新しい技術や見地に触れる重要な機会であると思っており、自分の視野を広げるためにも積極的に今後も関わりたいと思う。

また、今後は支部での支部リーダーズ会議を開催する予定で、今回の学会の様子を伝えることで、思いと同じくする仲間を増やすことが出来ればなお良いと考えている。（北海道総支部 廣部）

ミニフォーラムでは、産官学4名の方々から話題提供いただきましたが、「伝統技能の伝承や職人の育成」ということで話題提供いただいた(株)小林造園の小林さんの言葉が印象に残りました。

①造園は建築と違い、感覚的で自然任せなどころがある、若い職人にはまず、草木を好きになってもらいたい。デザインの勉強はその後にやってもいいのです？

②実践できる機会が無くても、定期的に講習会を開き、いつでも対応できるようになっている（同じ造園施工に携わるものとして、ついつい忙しさにかまけて、目の仕事だけやっていることに気付かれました）。

まずは、好きになることが、何の分野でやっていくにしても大切な事なんですね。

それを伝えて行くのが造園を好きでやっている自分の役割であるという事を今回のミニフォーラムで勉強することができました。（東北総支部 古積）

なぜわれわれは造園を選ぶのか、というタイトルでの、リーダーズからのミニフォーラムへの参加ということで、かなりざっくばらんに、造園業界において民間から行政迄、様々な立ち位置で極まった方々の、お話を聞ける有難い機会とな

りました。

コロナ禍で、今までの流れとは違い、かつ、時代の変化も大きな中で、皆さまが、それぞれの造園論をなるべく共有していくこうという姿勢を感じました。

大学の新入生でも、当初より造園領域を考える学生が増えていることや、造園の伝統が今後ますます重要になるといったお話、行政でもより自由度の高い造園領域の発展が見込まれていることなど、多岐にわたる専門性の深いテーマを、今回同様に深めていくようなミニフォーラムの開催を期待します。

（沖縄総支部 神谷）

◆
ミニフォーラムの「造園の魅力」について、パネラーの皆様のご意見を伺い、改めてその多さと深さを感じさせられました。今後はやはりどうやって「造園」の良さを次世代に伝えアピールするかに知恵を絞り、選ばれる職能にしていくかが重要であると思いました。（北陸総支部 野上）

◆
新型コロナウイルスの影響もあり、今年度の造園学会全国大会もオンラインで参加させていただきました。今回は「造園の魅力」をテーマにしたミニフォーラムがあり、様々な視点からの造園の魅力や現状・課題をお伺いすることができました。

◆
フォーラムのなかで、造園の学校に行っているものの造園業界に就職する人が少ないというコメントがあり、確かに地元の農林高校でも同じ状況にあると共感しました。将来は造園業界で働きたい！と思えるような魅力づくり、環境づくりも必要と感じました。

◆
日造協で主催しているデザインコンクールや出前講座など、造園の魅力を伝える活動をもっと利用させていただくとともに、異なる業界の方々とコラボして造園業界のイメージを更に向上させられたら面白いなと思いました。（中国総支部 小立）

◆
今後は、今回学んだ内容を各総支部内の支部リーダーズ等と情報共有し、造園学会に対する興味を持っていただくとともに、関わり方を模索するきっかけとしたいと考えています。

学会の目・眼・芽 第119回

よりいっそうの社会連携に向けての「芽」

(公社)日本造園学会理事・工学院大学 教授 篠沢 健太

日本造園学会は2019年度より社会連携委員会を発足、今期2期目になります。

本委員会は「国際委員会」を前身とし、当時から日本造園建設業協会の皆さんには、全国大会や日中韓国際ランズケープ専門家会議の開催などに際して様々な協力を頂いてきました。

現在も日造協―日本造園学会の包括連携協定に基づき、社会連携委員会にも日造協メンバーに委員として参加いただいている。

◆
私は2期ともにとりまとめ役を担当しているのですが順調とは言えません。

大型台風による各地の被害、covid-19感染拡大による緊急事態宣言下の公園管理の現場からの声と、公園緑地への社会的要請など、学会に期待され担わねばならないことは山積し、それらに十分応えられていないことは、不徳の致すところです。

日造協からの委員の方々にも様々提案いただきましたが、満足な結果に至らず申し訳なく思っています。

◆
私自身もようやく本委員会や学会が対応できることにはいくつかのレベル(限界)があることを(遅まきながら)理解はじめました。

1つは、学会誌連載記事「社会連携

の最前線」のように社会連携委員会が独自でとり組めること。

2つ目は、学会内の他の委員会相互の協力や協働によって実現すること(例えば大会ミニフォーラムなど)。

これには、委員会相互の調整・依頼事項(例えばCPD認証手続きの煩雑さに関する取り組みや、学会技術報告集の投稿に実務に携わる皆さんが感じるハードルの高さの改善など)も含まれます。

最後に、会長・理事会に働きかけて学会全体での議論の遡上に挙げ、学会から広く社会に働きかけること。

◆
今期を迎ても私の不安は拭えていませんが、一方でそこを越えて若い芽が徐々に育ちつつある事実です。これらは学会誌記事でご報告していきます。

本委員会は、引き続き学会への社会

的要請に対しアンテナを張りつつ、学会変革へのきっかけとしての役割を担うことが重要だと思っています。

学会内では社会連携・技術についてのタスクフォースでも議論が、進んでいます。

前回本記事で入江先生が「見える化」について書かれましたが、学会も同じです。会員の専門分野と仕事の内容、社会連携へと「手」が伸びられているか?見えるようにすることが急務だと感じています。



日本造園学会は1925年に設立され、間もなく100周年を迎えます。その設立には関東大震災とその復興に向けての社会からの要請があったと聞きます。学会本来の姿を問いかけて、「顔が見える」学会へと、真摯に進みたいと思います。

日造協の皆さんにもご協力いただければ幸いです。

「街路樹剪定士」資格制度規程の改定について (2022年1月施行)

「街路樹剪定士認定試験」の受験資格要件にフルハーネス使用特別教育の修了を追加

墜落制止用器具(安全帯)の規制に関する政省令が改正され、2022年1月2日完全施行となります。

「街路樹剪定士認定試験(実技試験)」

においては5m以上の樹上での剪定作業を伴い、また試験に合格し登録認定後に街路樹剪定士として活動するためにも、フルハーネス型墜落制止用器具(安

全帶)の使用が必須となります。

そのため、2022年1月以降実施する「街路樹剪定士認定試験」の受験資格に「フルハーネス型墜落制止用器具使用特

別教育」の受講を追加することとしました(詳細は、「街路樹剪定士資格制度規程」の「第2章 街路樹剪定士認定試験」(下記)をご覧ください)。

(受験資格)

第5条 次のいずれかに該当し、かつ第7条に規定する街路樹剪定士研修会(以下「剪定士研修会」という。)を受講した者は、剪定士認定試験を受験することができる。

- (1) 1級造園技能士である者
- (2) 2級造園技能士で当該資格取得後2年以上の剪定業務経験がある者
- (3) 樹木の植栽工事又は剪定業務に直接従事した実務経験の合計が7年以上ある者

改定



(受験資格)

第5条 第5条次のいずれかに該当し、かつ第7条に規定する街路樹剪定士研修会(以下「剪定士研修会」という。)の受講および労働安全衛生法に基づくフルハーネス型墜落制止用器具の特別教育を受講した者は、剪定士認定試験を受験することができる。

- (1) 1級造園技能士である者
- (2) 2級造園技能士で当該資格取得後2年以上の剪定業務経験がある者
- (3) 樹木の植栽工事又は剪定業務に直接従事した実務経験の合計が7年以上ある者

アフターコロナに向けて 会員の取り組み事例

定員削減スペースに植物を配置

広報活動部会では先頃、日造協会員を対象に「コロナ禍での公園等の活用に関する調査」を行い24件の回答をいただきました。本号から適宜ご紹介いたします。

開成スポーツパートナーズ(代表企業:湘南造園株)、構成企業:横浜緑地(株)ほか)は、指定管理を行う開成水辺スポーツ公園(神奈川県開成町)において、感染対策として密集・密接を回避するためにイスを間引いたスペースに観葉植物を配置する試みを行ったところ、「緑がたくさんあり、空気がきれいな気がする」「雰囲気が変わった」「ジャングルみたい!」と好評を得ている。

◆
イスを間引いたスペースに植物を配置したのは、指定管理を行う公園の来園者が休息できる談話室(休憩室)である。

きっかけは、行政から談話室の収容人数を制限するようにとの指示で、初めはイスを撤去しようとしたが、逆に空きスペースができ、室内に多くの人を入れてしまうことになりかねないことから、

その対策を検討した。

◆
イスに代わる“モノ”を考える中で、社内のグリーンリース部が扱っている観葉植物を置く案が出たことから、担当部署の協力で植物を配置した。

社内の調整で実施できたため、大きな問題はなかったが、公園自体が古く、室内の照明が暗かったので、LEDライトを購入・設置して照度を補い、公園スタッフは観葉植物についての知識が浅いことから、日々の水やり、病気についてのレクチャーと実践を行った。

◆
この結果、来園者からは、「ホテルのロビーみたい」と、ガラッと変わった印象も好評で、公園には幼児も多く来園するので、木の枝に動物のぬいぐるみや昆蟲のおもちゃなどを隠すように乗せたと



古い施設で暗かった室内は、LEDライトを購入、設置することで照度を補ったことの大変さを知った」と、社内の仕事を知ることにもつながったという。

◆
公園スタッフも、「殺風景だった室内に緑があることで、癒しの効果があるようを感じる」「病害虫の駆除の方法を新たに学んだ」など、生きものである観葉植物を導入したこと、「改めて管理す



さまざまな観葉植物を配置した談話室



殺風景だった談話室⑤ 観葉植物で雰囲気が変わった談話室⑥

ふる
愛知県
と自慢

出身地長野・諏訪大社の名品「塩羊羹」と「ところてん」

私は入社して2年目になります。大学を卒業してからの入職ですが、実は造園土木とは全く違う経営学部からの入職で現在は造園職として日々現場に出ています。

自分が女性だということもあり、周りも何かと気を使ってくれています。ただ、自分の中ではしっかりと造園の職を身に付け、将来は現場作業もしっかりとこなせる様な現場管理のできる監督として会社に貢献したいと思っています。

私の出身は長野県で、大学から名古屋に出てきていますので、名古屋とは生活様式・食文化が異なっています。最初は戸惑いましたが、今はすっかり慣れています。

今回は『ふるさと自慢』の執筆という機会をいただきましたので、私の故郷のB級?グルメ

を少しだけ紹介させていただきます。

私は長野市出身ですが、4歳まで諏訪市におきましたので、まずは諏訪大社の塩羊羹を紹介いたします。

いまや日本各地で見られる塩羊羹。その元祖といわれているのが、諏訪大社下社秋宮門前の「新鶴本店」です。

明治六年に、創業者の河西六郎が諏訪地方特産の寒天を使った羊羹に、山国信州では貴重だった塩を加えることを発案。小豆・寒天・砂糖と塩の馴染み具合に苦心しながら、工夫を重ねて完成させました。

厳選された北海道十勝産の小豆と地元茅野の寒天を材料に、楳の薪を焚いて練り上げるという昔ながらの製法にこだわっています。強くて柔らかな楳材の火力と職人の技が、ガスや機械では出せない



塩羊羹



ところてん

適していることから、古くから寒天づくりが盛んに行われていました。

その寒天を乾燥させる前の状態が「ところてん」。最高です。一度食べてみてください(笑)。

島田 茜 (株)中嶋造園土木)

2021 登録造園基幹技能者講習 4会場で実施へ

ゴールドカード付与、1級造園施工管理技士も受講可能に
中小建設事業主の人材開発支援助成金にも対応

登録造園基幹技能者講習は、日造協と(一社)日本造園組合連合会(造園連)の2団体が登録講習機関として共同で実施するもので、講習を修了した登録造園基幹技能者は、経営事項審査での加点評価、「総合評価落札方式」での評価優遇、元請企業の「優良技能者認定制度」などに活用されています。

さらに、主任技術者としての位置づけや建設キャリアアップシステムにおいては最高位(レベル4)であるゴールドカード付与などの評価が受けられます。

また、昨年度受講資格要件を見直し、「1級造園施工管理技士」でも受講できるようになりました。

建設工事の品質確保や安全管理などが社会的にも大きな関心が寄せられている

中、登録造園基幹技能者への期待はますます高まっていますので、ぜひこの機会に受講をご検討ください。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止対応について、各機関ガイドラインに沿って開催しますので受講者の皆様にもご協力いただきます。また、今後の新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、中止とする場合がございます。

そのほか、「登録基幹技能者認定講習」は、「人材開発支援助成金(建設労働者技能実習コース)」の対象となっており、中小建設事業主は助成を受けられます。詳しくは、事業主の所在地を管轄する都道府県労働局、またはハローワークにご確認下さい。

2021年度登録造園基幹技能者講習開催概要

■日程と開催会場

開催地	日程	会場名
沖縄	2021年10月7日(木)~8日(金) ※台風によっては10/14~15に延期	日建学院 沖縄校
大阪	2021年11月18日(木)~19日(金)	日建学院 梅田校
愛媛	2022年1月20日(木)~21日(金)	日建学院 松山校
東京	2022年1月27日(木)~28日(金)	国立オリンピック記念青少年総合センター

■受講資格:以下のすべての条件を満たすこと。

- ①1級造園技能士または1級造園施工管理技士の資格を有すること。
- ②造園工事業に関し10年以上の実務経験を有すること。
- ③職長経験が3年以上※であること。(※職長教育修了証の写しを添付する)

■申込期間: 2021年9月1日~各会場の開催日の2週間前まで(消印有効)

■受講料: 41,800円(税込)

※詳しくは日造協のホームページをご覧ください。

●50周年記念誌編集会議【web】

7/16 50周年記念誌の目次(案)などについて審議

●技能五輪全国大会造園競技委員会【web】

7/19 東京大会(木場公園)での競技課題について審議

●国際企画部会【web】

7/20 2021年度国際委員会の行動計画について

審議

●植栽基盤診断士認定委員会

7/20 学科試験の問題案及び実技試験について審議

●地域リーダーズ会議【web】

7/26 2021年度第2回勉強会(中国支部)活動計画、次期全国リーダーズメンバー、3役の推薦について審議

【造園用フルハーネス型墜落制止用器具の販売】

★日造協では、技術委員会安全部会を中心に労働安全衛生規則の改正に伴い造園作業に適したフルハーネス型墜落制止用器具を開発などを進めてきました。

この度、日造協安全部会の群馬庚申園(株)様から「造園用フルハーネス型墜落制止用器具」を会員の皆様へ特別価格で提供とのご案内がありました。

ご希望の方はURL(<http://shop.kousinen.com/>)よりお申し込みください。